

# No. 1007

## 72 歳のお祝い

—天皇誕生日—

さわやかな春の陽差しが木々の間からこぼれる。皇居内の、吹上御苑。天皇・皇后両陛下は、芽の出たわらび狩りを楽しまれています。生物学研究所では、皇后さまからの送り物の顕微鏡をのぞいて、研究に余念がありません。

4月29日、天皇陛下の72才の誕生日を祝う一般参賀が宮殿・東庭で行なわれました。今年は国鉄ストの余波で地方からの団体も少なく、更に連休初日の為か昨年より少ない2万4千の参賀者でした。

この日72才になられた天皇陛下は皇后さま、皇太子、常陸宮御夫妻といっしょにお元気な姿で長和殿ベランダにお立ちになりました。陛下は日の丸の小旗を振りバンザイを叫ぶ人々に終始にこやかに手をあげてこたえられました。

## この空を汚すのは

—名古屋シバタ喘息—

中京工業地帯の中心部名古屋南区。ここもまた、四日市や川崎におとらず、大気汚染のひどい地域だ。工場群に最も近い柴田町、いつ頃からかのどや気管支を犯される人が続出し、シバタ喘息という名がついた。患者の一人である広瀬さんは「今では、昼より夜間工場は煙を吐く。ここの大気汚染は、東海市の工場からのと複合汚染だと語る。一昨年、ついに死者まで出した。認定患者も増える一方、現在1,700人以上にものぼる。

汚染区域の真中にある南診療所。ここには毎日、喘息患者が治療におとずれる。老人や子供が多い。弱いものから順に犯されていくからだ。現在の医療では、タイショウ療法しかなく完全に治る事はまずないと担当の医師は言う。街では、樹木もどんどん枯れていった。住民は率先して、なんとか緑を増やそうと公害に強い木を植えていく。教室の窓から煙を吐く工場の煙突が見える柴田小学校。現在11人の公害認定をうけた子供達がいる。今ここでは、様々の子供達の身を守る方法がとられている。窓をしめぎり空気清浄器を使つての授業、夏は暑く冬は寒い。しかしこれも仕方がないのだ。

運動場には、パイエンを落とすためにスプリンクラーが取り付けられている。そして運動がすめば、子供達はうがい強制される。こんな日課に子供達は慣れなければならないのだ。二年生のある児童は作文にこうつづつた。町も村のように山があって林や森がある空気のいい所だと思ひます。煙突から煙があんまり出ると、くさいにおいがする時がたくさんあります。私はのどがいたくなります。私は煙突の煙も廃棄ガスもないところをしたい。自動車会社の社長さんや、会社の社長さん公害を少なくして下さい。公害反対。

この空を汚すのは誰れか。人間の命や生活を破壊にみちびく大気汚染公害。  
今夜もまた、汚れたこの空の下で、子供や老人が喘息の発作に苦しんでいる。